

MIYU
2026

Public University Corporation MIYAGI UNIVERSITY

令和8年度入学

宮城大学入試ガイド



宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

Contents

総合型選抜

1. 選抜方法と日程	3
2. 総合型選抜はこんな方にオススメ！	4
3. 総合型選抜の概要	
(1) 出願書類	4
自己申告書①	5
自己申告書②	6
(2) 第1次選考	7
レクチャー①・レクチャーレポート	7
(3) 第2次選考	9
レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポート	9
面接（口頭試問を含む。）	10

学校推薦型選抜

1. 選抜方法と日程	12
2. 学校推薦型選抜はこんな方にオススメ！	12
3. 入試科目「面接」の概要	12

一般選抜〔前期・後期〕

1. 選抜方法と日程	13
2. 大学入学共通テスト及び個別学力検査の科目等	13
3. 入試科目「論説」の概要	15
4. 一般選抜における主体性等の評価	16

入学者選抜方法についての Q & A

令和7年度入学 入試結果	19
令和7年度出身校所在地別志願者数・入学者数	19

令和8年度入学 宮城大学入学者選抜方法

社会情勢等によりやむを得ず選抜方法や選抜日程に変更等が生じる場合は、速やかに本学ウェブサイトにて公表いたします。
<https://www.myu.ac.jp/admissions/colleges/>

学類単位の入試

総合型選抜 (P.3 参照)

入試科目

各学類	第1次選考	1. レクチャー① 2. レクチャーレポート	3. 提出書類
	第2次選考	1日目	1. レクチャー② 2. グループワーク 3. ふりかえりレポート
		2日目	4. 面接（口頭試問を含む。）
		5. 提出書類	

●レクチャー①、レクチャーレポート、提出書類による第1次選考を行い、合格者に対して第2次選考を行います。第2次選考では2日間の試験を通して、「課題を設定し、見直し、解決し、振り返る力」を評価します。
●高等学校長からの推薦は要しませんので、どなたでも出願できます。
●入学手続後、本学が指定する大学入学共通テスト科目を受験し、自己採点のスコアを報告していただきます。
●本学の一般選抜や学校推薦型選抜との併願ができます。

※このほか、私費外国人留学生入試を実施します。

入学時に決定した学類のまま、2年次に進むことができます。

※原則として、途中で学類を変更することはできません。

学群単位の入試

学校推薦型選抜 (P.12 参照)

入試科目

各学群	大学入学共通テスト	面接
-----	-----------	----

●大学入学共通テストの受験を課し、合計点を総合判定の一部として利用します。
●本学の一般選抜や総合型選抜との併願ができます。

一般選抜〔前期・後期〕 (P.13 参照)

入試科目

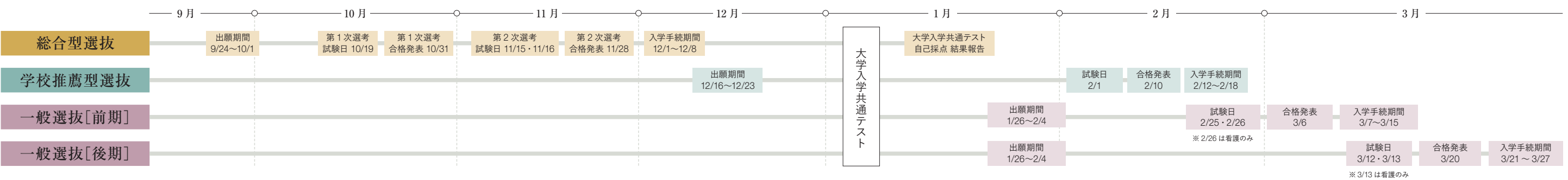
看護学群 事業構想学群 食産業学群	大学入学共通テスト	個別学力検査		
		外国語	論説	面接
		外国語	論説	数学
		外国語	理科	数学

※このほか、帰国生徒選抜、社会人選抜を実施します。

2年次進級時に、学類配属を決定します。

※看護学群は1学類のため、全員が看護学類で学ぶことになります。

Schedule 令和8年度入学 入試スケジュール



総合型選抜

1 選抜方法と日程

募集人員	看護学群：看護学類 8 名 事業構想学群：事業プランニング学類 8 名 ／ 地域創生学類 8 名 ／ 価値創造デザイン学類 8 名 食産業学群：生物生産学類 8 名 ／ フードマネジメント学類 8 名		
出願期間	令和 7 年 9 月 24 日（水）～令和 7 年 10 月 1 日（水） 【期間内必着】		
第 1 次選考	令和 7 年 10 月 19 日（日） 第 1 次選考では、次の活動と出願書類により選考を行います。		
	レクチャー①	講師によるレクチャー（あるテーマについて、さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。）を受講する。	
	レクチャーレポート	レクチャー①の内容に関するレポート（設問形式）を作成する。	
	自己申告書 〈出願時に受験者が作成〉	自己を推薦する文章及び学修計画に関する文章を作成する。	
	調査書 〈出願時に出身高校等で作成〉	高校等での学業成績や活動の記録・評価等を記載する。	
第 1 次選考 合格発表	令和 7 年 10 月 31 日（金）		
	第 2 次選考では、第 1 次選考に合格した方に対して、2 日間の活動を通した選考を行います。		
第 2 次選考	1 日目〈令和 7 年 11 月 15 日（土）〉		
	レクチャー②	講師によるレクチャー（レクチャー①のテーマを踏まえ、さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。）を受講する。	
	グループワーク	レクチャー②に関するテーマについて、少人数のグループで議論を行う。	
	ふりかえりレポート	一連の過程を振り返り、自身の思考の変化や深まりをレポートにまとめる。	
	2 日目〈令和 7 年 11 月 16 日（日）〉		
	面接 （口頭試問を含む。）	高校までの基礎的な学習成果を問う口頭試問、志望する学類への意欲や資質を問う面接を行う。 ※口頭試問では、「英語」と「数学」に関する基礎的な内容の口頭試問を実施します。	
第 2 次選考 合格発表	令和 7 年 11 月 28 日（金）		
入学手続後	本学入学後の指導の参考とするため、令和 8 年度大学入学共通テストにおいて、本学が指定する科目を受験し、自己採点結果を報告していただきます。大学入学共通テストの出願期間は、大学入試センターが公表する受験案内を確認してください。		

2 総合型選抜はこんな方にオススメ！

- ・大学で学びたいことや、進みたい学類が決まっている方
- ・学類での学修に対する強い意欲や高い資質のある方
- ・高等学校までの総合的な探究の時間等で、問題解決型の活動に意欲的に取り組んできた方

3 総合型選抜の概要

重視する「高校等での学習」の成果

総合的な探究の時間や各教科等での、①問題解決型の活動が発展的に繰り返される探究学習、②互いの考えを伝え合い、自身の考えを発展させる等、他者と協働して課題を解決する学習、③自ら得た情報を分析・評価し、まとめ、表現する学習等

例：総合的な探究の時間での探究活動・協働的な学習・言語活動、SSH での科学的探究活動、SGH でのグローバル探究学習、専門高校でのプロジェクト学習等

総合型選抜で評価する資質や能力

これまでの学習に基づく学力の基盤や、高校等での探究的活動に裏付けされた課題発見・解決能力に加えて、自身の興味や関心に基づいた、学類での学修に対する強い意欲や高い資質

（1）出願書類

自己申告書は受験者本人が作成したものを、調査書は高校等で作成されたものを提出してください。

自己申告書①

自己申告書①の内容	これまで（主に高校等）の学習成果やそのことによって得た自身の強みについて、事実に基づいて示し、自己を推薦する文章を作成する。 ※ P.5 参照
「高校等での学習」の成果として重視する点	高校等での学びの実践を通して、主体的に学び考え、自ら課題を設定し、興味や関心を追究する力や態度が身についている。
評価する資質や能力	これまでの学習や活動の実績に裏付けられた自身の強みについて、根拠を提示しながら、筋道を立てて説得力のある文章で表現できる力。

自己申告書②

自己申告書②の内容	志望する学類への興味や関心をもとに、志望する学群・学類を卒業した後の目標を実現するために「何を」「どのように」学びたいか、自身の学びの展望を提示し、学修計画を立てる。 ※ P.6 参照
「高校等での学習」の成果として重視する点	見通しをもって、自身の興味や関心をよく整理した上で、入学後の目標を設定し、その実現に向けた道筋を計画する力や態度が身についている。
評価する資質や能力	自ら志望する学類への興味や関心をもとに、志望する専門分野の学問的意義や社会的位置付けを関連させながら志望する学群・学類を卒業した後の目標を設定し、その実現に向けた自身の展望を、根拠を提示しながら、筋道を立てて説得力のある文章で表現できる力。

調査書

評価する資質や能力	・高校等での学業成績（評定平均値を含む。）等の観点からみた学力の基盤。 ・調査書における「指導上参考となる諸事項」及び「総合的な探究の時間の記録」やその他の記載事項からみた学習内容 等
	※総合的な探究の時間を履修しなかった者（研究開発学校、専門学科）については、総合的な探究の時間に代わる活動を記した副申書をもって代えることができる。

自己申告書① これまでの学習成果やそのことによって得た自身の強みを PR する

作成にあたって

- ・ 学習成果とは、各教科の学習（総合的な探究の時間を含む。）、ホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事での成果のことを指します。課外の部活動や学外活動（ボランティア活動等）について述べる場合も、各教科の学習（総合的な探究の時間を含む。）やホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事と関連づけて書いてください。
- ・ 学習成果は、「～を経験した」「～ができた」「～の成果を残した」という事実や結果の列挙だけではなく、そこに至るまでの過程や、どのように考えて活動したか、また、それらを通して自分が何を学んだか等を具体的に書いてください。
- ・ 高等学校等での学習（例えば探究学習等）を通して得た「これだけは誰にも負けない」という自分の強みについて書いてください。
- ・ 他人の言葉や書籍・インターネットから引用するのではなく、自分の経験を踏まえ、自分の言葉で書いてください。

回答内容参照

未提出 / 未支払

宮城大学
総合型選抜
自己申告書①(総合型選抜) (申請1)

タイトル入力

編集

✓

あなたのこれまでの学習成果や、それによって得られた自分の強みについて、主体的に取り組み実践した課程を根拠に示しながら説明してください。そのうえで文章に表題をつけ、上のタイトル入力欄に記載してください

編集

✓

800文字 / 800文字

①あなたのこれまでの学習成果や、それによって得られた自分の強みについて、主体的に取り組み実践した過程を根拠に示しながら説明してください。その上で、文章に表題もつけてください。

(※令和 7 年度入学者選抜では学校法人河合塾の J-Bridge System を使用しました。画像は J-Bridge System のものです。令和 8 年度入学者選抜では変更が生じる場合があります。)

作成のポイント

- ・ これまでの学習のなかで、課題を自分で見つけて、それを解決するための活動や情報収集を行った経験があれば、その過程を具体的に記載しよう。
- ・ その結果、どのようなことが得られたのか、学習と得られたこととのつながりがわかるように記載しよう。
- ・ 学習の過程で、新しい気づきがあったか、自分の強みは何か、振り返って考えてみよう。自分を分析してみることが大切！
- ・ ほかに人にはない自分の特徴をアピールしよう。

自己申告書② 入学後の学びの展望を示す

作成にあたって

- ・ 単に「～を学びたい」「～をしたい」ということを書くのではなく、なぜその分野に興味を持ったのか、興味を持ったことに対してこれまでにどのような活動をしたのか等を具体的に書いた上で、入学後の学修に対する自らの展望を説明してください。
- ・ 志望する学群・学類が持つ学問的意義や社会的位置付けを明確にしながら、志望分野への強い意欲や、自ら積極的に学ぼうとする姿勢等を、自分の言葉で書いてください。
- ・ 大学での 4 年間の学びにとどまらず、大学卒業後の自分の将来の姿をイメージし、関連させながら書いてください。

回答内容参照

未提出 / 未支払

宮城大学
総合型選抜
自己申告書②(総合型選抜) (申請1)

あなたが、志望する学群・学類を卒業した後の目標を達成するために、「何を」「どのように」学びたいのかを計画し、文章で書いてください。

編集

✓

1000文字 / 1000文字

②あなたが、志望する学群・学類を卒業した後の目標を実現するために、「何を」「どのように」学びたいのかを計画し、文章で書いてください。

(※令和 7 年度入学者選抜では学校法人河合塾の J-Bridge System を使用しました。画像は J-Bridge System のものです。令和 8 年度入学者選抜では変更が生じる場合があります。)

作成のポイント

- ・ 志望する分野に興味を持ったきっかけや理由を具体的に記載しよう。
- ・ 志望する分野に関連することについて、自分で活動したり、調べたりしたことがあれば、必ず記載しよう。
- ・ 大学での学びへの熱い思いを記載しよう。将来の「夢」だけではなく、入学後にいつ、何を、どのように学んでいくのかなど、できるだけ具体的に「計画」を立ててみよう。
- ・ 大学での学びは、社会ではどんな意味があるのか、調べてみよう。ウェブサイトでは研究内容の紹介もしているので、興味のある分野を覗いてみることもおすすめ！

（２）第１次選考

第１次選考では、以下の活動（レクチャー①、レクチャーレポート）を評価した成績に加えて、自己申告書、調査書の内容を総合的に判定して選抜を行います。

試験科目	内 容	評 価
レクチャー①（50 分）	講師によるレクチャー①を受講します。	レクチャーレポートを対象とします。
レクチャーレポート（80 分）	レクチャー①の内容に関するレポートを作成します。	

レクチャー①・レクチャーレポート

レクチャー①・レクチャーレポートの内容	レクチャー①（あるテーマについて、さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。）を受講し、その後、レクチャー①の内容に関するレポート（設問形式）を作成する。
「高等学校での学習」の成果として重視する点	聴講活動を通して、課題意識をもち、得られた事象や情報を整理・分析し、概要にまとめ、論述する力や態度が身についている。
評価する資質や能力	与えられた事象や情報を的確に把握し、その中から必要なものを抽出・分析する力。さらに、自身が探究すべき課題を設定し、高校等での学習や自身の経験をレクチャー①の内容と関連付けながら、その解決への道筋を考察し、論述できる力。

【参考】昨年のレクチャー①・レクチャーレポートの内容例（実際のものと一部表現が異なります。）

〈レクチャー①概要〉

私たちの日常的な活動と環境との関わりを、日本の食料事情という観点から扱った。食料自給率の変化、食料輸入が抱える課題や地球環境への影響、それらを踏まえた日本の消費者意識について、主に数値的なデータを示しつつ具体的に説明した。その上で、日常の食生活を支える輸入食材の恩恵を意識する一方で、食料輸入が抱えるさまざまな状況を理解し、消費活動に結びつけていくことの必要性について、思考を促した。

〈レクチャー①資料〉

- 図表 1 日本の総合食料自給率の推移（カロリーベース）
- 図表 2 日本の品目別食料自給率の推移（重量ベース）
- 図表 3 日本と欧米諸国の食料消費量の変化
- 図表 4 食料自給率を献立でイメージすると
- 図表 5 食料の輸入に関して懸念されること
- 図表 6 フードマイレージという考え方
- 図表 7 食料の輸入をイメージする
- 図表 8 2001 年の食料輸入量とフードマイレージ（総量）
- 図表 9 2001 年の食料輸入量とフードマイレージ（1 人あたり）
- 図表 10 地球環境問題への関心と食料の選択
- 図表 11 消費者が選んでいる環境に配慮した農林水産物・食品
- 図表 12 「国産のもの」を最もよく選んでいると回答した人の選択理由

〈レクチャーレポート設問〉

- 問 1 日本の食料自給率と食料消費量について、以下の設問に答えなさい。
- (1) 1965 年と 2020 年を比較すると、日本の食料自給率について、どのような変化が読み取れるか。全体の傾向、および変化率の最も大きい品目、最も小さい品目に触れながら、具体的に述べなさい。なお、解答にあたっては、根拠となる図表番号を明示しなさい。

- (2) 1965 年からの約 50 年間における日本の食生活において、輸入に支えられる傾向が最も強まったと考えられる品目は何か。食料消費量と食料自給率を関連付けて、具体的に説明しなさい。
- (3) 日本の食料自給率の現状を踏まえ、食生活の維持という観点に立った場合、将来的にどのようなことが懸念されるか。それぞれの懸念の背景に触れながら、簡潔に 4 つ述べなさい。

⇒ねらい：日本の食料自給率と食料消費量を素材に、適切な図表を選び、正しく読み取る力、及び読み取ったことを論理的に説明できる力をみる。

問 2 食料の輸入に関する、以下の設問に答えなさい。

- (1) 下の【表】は、ある年における、日本と韓国の穀物輸入を比較したものである。①および②の数値を求め、【表】を完成させなさい。なお、両国の食料輸入に関する平均輸送距離は品目および年による違いはなく、10 キロメートル以下の距離は切り捨てて扱うものとする。また、解答にあたっては、計算式を示し、表の数値を参考に適切な位で四捨五入すること。
- 【表】日本と韓国の穀物輸入の比較

	日 本	韓 国
人口概数（単位：人）	127,100,000	47,370,000
輸入総量（単位：千 t）	31,307	①
1 人あたり輸入量（単位：t/ 人）	0.25	②
輸入総量のフードマイレージ（単位：千 t・km）	479,000,000	174,000,000
1 人あたりのフードマイレージ（単位：t・km/ 人）	3,769	3,673

- (2) 完成させた【表】からは、日本と韓国の穀物輸入について、どのようなことが読み取れるか。1 人あたり輸入量で見た場合、1 人あたりフードマイレージで見た場合それぞれについて、両国を比較しながら説明しなさい。
- (3) 日本と韓国の穀物輸入について、1 人あたり輸入量と 1 人あたりフードマイレージが、問 2 (2) で述べた関係を示す要因は、何にあると考えられるか。その要因として考えられることを簡潔に述べなさい。

⇒ねらい：フードマイレージという考え方を素材に、計算する力、及び導き出した数値や定義をもとに説明する力をみる。

問 3 「食」と環境問題をめぐる日本の消費者意識に関して、以下の設問に答えなさい。

- (1) 下記にある食品ア～ケを選択することは、①食品ロスの削減、②プラスチックごみの削減、③生産過程の環境負荷の低減、④輸送に伴う温室効果ガス排出の削減のうち、どの環境負荷の削減・低減につながると考えられるか。食品ア～ケを、最もつながりのあると考えられる環境負荷①～④の欄に、記号で記入しなさい。なお、1 つの記号は、1 つの欄にしか使えないものとする。
- 《食品》
- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| ア. 生物の生育環境保全に配慮されたことので分かるもの | イ. 小分けのもの |
| ウ. 近隣地域で生産・加工されたもの | エ. 少量パックのもの |
| オ. 国産のもの | カ. 環境配慮表示のあるもの |
| ク. 非過剰包装のもの | ケ. 化石燃料使用削減に配慮されていると分かるもの |
- (2) 国産のものを選ぶ消費者の意識について、【図表 11】と【図表 12】から読み取れることを関連付けて、説明しなさい。
- (3) 日本における食料自給率の現状と、そこから派生する環境負荷を踏まえたとき、あなたは消費者としてどのような意識が必要であると考えるか。また、その意識は、あなた自身のどのような消費活動に結びついていくと考えるか。300 字以内で述べなさい。なお、解答にあたっては、レクチャー内容やこれまでの経験・学習など、何に基づいてそのような考えに至ったのか、具体的に述べること。

⇒ねらい：地球環境への関心と食品選択との関わりを示す消費者アンケートを素材に、適切な図表からの確に情報を整理・説明する力、及びその情報を自分事として置き換え、考察する応用力をみる。

レクチャー①・レクチャーレポートのポイント

- ・レクチャー①で説明される内容を、理解しながら、重要だと思うことをしっかりメモしておこう。
- ・レクチャー①では、グラフや表が多く出てきます。様々な種類のグラフや表を正しく読み取るだけでなく、数値を加工したり複数のグラフや表を組み合わせると、どんなことが読み取れるのか、普段から考える癖をつけておこう。
- ・読み取った内容を簡潔な文章で適切に表現できるようにしておこう。
- ・レクチャー①で説明される内容と、高校までの学習内容や自らの体験などを結びつけて理解を深めよう。

（３）第２次選考

第１次選考に合格した方に対して、２日間の活動を行い、２日間の活動を評価した成績及び自己申告書、調査書等の出願書類の内容を総合的に判定して選抜を行います。

選抜日程	試験科目	内 容	評 価
１日目	レクチャー②（50 分）	講師によるレクチャー②を受講します。 レクチャー②の内容は、レクチャー①のテーマを踏まえ、多様な視点等を加えて発展させたものを予定しています。	主としてふりかえりレポートを対象とします。
	グループワーク（60 分）	レクチャー②に関連するテーマについて、少人数のグループで議論を行います。	
	ふりかえりレポート（80 分）	レクチャー②から一連の過程を振り返り、レポートを作成します。	
２日目	面接（口頭試問を含む。）(25 分）	高校までの基礎的な学習成果を問う口頭試問及び志望する学類への意欲や資質を問う面接を受けます。 １人あたり 25 分間の面接を行います。内訳は以下のとおりです。 ・口頭試問（約 15 分） ・面接（約 10 分）	口頭試問を重視します。

レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポート

レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポートの内容	レクチャー②（レクチャー①のテーマを踏まえ、さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。）を受講し、その後、レクチャー②に関連するテーマについて、少人数のグループで議論（グループワーク）を行う。グループワーク終了後、レクチャー②から一連の過程を振り返り、自身の思考の変化や深まりをレポートにまとめる。
「高校等での学習」の成果として重視する点	他者と協働して課題を解決することができる力や、課題解決に至るまでのプロセスの中で、自身の思考の変化や深まりに気づく力が身についている。
評価する資質や能力	自身の考えを他者と共有し、進んでグループに貢献する力や、他者の意見や問題提起等を受け、さまざまな意見や高校での学習、自身の経験などを比較しながら、自身の思考を展開する力。さらに、自身の思考の展開について、根拠を示しながら、筋道を立てて説得力のある論述ができる力。

【参考】昨年のレクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポートの内容例（実際のものと一部表現が異なります。）

〈レクチャー②概要〉

私たちの日常的な活動と環境との関わりを、日本の食生活における旬と産地という観点で扱った。日本の食の特質と旬を説明した上で身近な旬の食材の例を確認し、蕎麦を例に食材の生育に適した気候や土壌と人間の営みとの関わり、昆布だしを例に地形と水質と生み出される味との関係について説明をした。その上で、日常の食生活における、その土地が生み出す味への意識について思考を促した。

〈レクチャー②資料〉

- 図表 1 日本の食の特徴
- 図表 2 旬とは何か
- 図表 3 身近な食材の旬の一例
- 図表 4 春を旬とする食材と秋を旬とする食材の例
- 図表 5 初夏を旬とする川魚の例
- 図表 6 ソバ（蕎麦）を知る
- 図表 7 日本におけるソバのおもな名産地
- 図表 8 日本におけるソバのおもな名産地の周辺環境
- 図表 9 日本列島の形成から考える
- 図表 10 コンブ（昆布）を知る
- 図表 11 本州各地方の水道水と京都の天然水の硬度
- 図表 12 日本の本州各地方と海外の水道水の硬水
- 図表 13 日本と世界の主要河川の勾配
- 図表 14 老舗の蕎麦店「本店」の概要
- 図表 15 老舗の蕎麦店「支店」の概要
- 図表 16 「老舗の蕎麦店」の本店または支店で食事をする際の積極的要素と消極的要素、および自分の選択

〈グループワークテーマ〉

グループワークメンバー全員で、「土地の味」を味わえることで評判の老舗の蕎麦店で食事をしようとする場合、本店と支店、どちらの店舗を選択するか（老舗の蕎麦店の本店および支店の概要は、「レクチャー②資料冊子」の【図表 14】【図表 15】を参照）。
以下の各項についてグループワークを行い、グループとして食事に行く店舗を決定しなさい。
なお、議論にあたっては、なるべく多くの異なる意見を出し合い、互いの意見やその根拠となる考えをしっかりと確認すること。
〈中略〉

〈ふりかえりレポート設問〉

- 問 1 資料冊子を含むレクチャー②の内容にもとづき、以下の設問に答えなさい。
- (1) 日本において、旬の時期以外にも一年を通して手に入る食材があるのは、なぜだと考えられるか。それを可能としている要因 3 つに触れながら、説明しなさい。
 - (2) 日本列島において、ソバの名産地とされるのは、どのような地域に多いか。ソバの性質と土壌、および人びとの営みとを関係づけて、説明しなさい。
 - (3) 関東地方の水道水を用いた場合と、京都の天然水を用いた場合とで生じると考えられるコンブ出汁の相違について、コンブの性質と水の硬度との関係を踏まえて説明しなさい。
- ⇒ねらい：レクチャー②の内容を正しく理解し、複数の資料を活用して、自然環境と食材及び食文化との関わりについて説明する力をみる。

- 問 2 「老舗の蕎麦店」の選択に関して、以下の設問に答えなさい。
- (1) グループワーク以前、あなたは本店と支店、どちらへ食事に行くと考えていたか。本店と支店の違いに触れながら、その店を選んだ際に重視した理由とともに、あなたの選択を述べなさい。
 - (2) グループワークを経て、あなた自身の選択は、どのように変化したか、または深まったか。グループワークで提示された意見とあなたの考えとが同じだった点、または異なっていた点に触れながら、いまのあなたの選択について述べなさい。なお、あなたの選択がグループの選択と異なっても構わない。
 - (3) 「どちらの店舗で食事をするか」という選択において、もっとも重視する要素に関するあなた自身の考えは、自己ワークの時点からグループワークを経てどのように変化したか、または深まったか、説明しなさい。
- ⇒ねらい：グループワークの振り返りを通じ、自分の意見と他者の意見との区別や、他者の意見を参考にした考えの深まりを、根拠を明示して客観的に評価できる力をみる。

- 問 3 レクチャー①、およびグループワークを含むレクチャー②を通じて、あなたは日本で食生活を営む一個人として、どのような態度が必要で、どのような行動をとろうと考えるに至ったか。以下の①および②に触れ、合わせて 300 字以内で述べなさい。
- ①あなたはこれまでどのような考え方だったか。その根拠（高校までの学習内容や、あなた自身の経験など）を示して、具体的に述べなさい。
 - ②その考え方は、レクチャー、自己ワーク、グループワークを経て、どのように変化したか、または深まったか、具体的に述べなさい。
- ⇒ねらい：レクチャー①②、グループワークを全体として捉え直し、「日本で食を営んでいく」一個人としての必要な意識と、その意識から導かれる行動を思考し、これまでの自分の考え方と比較しながら説明する問題である。自分の考えの変化や深まりを論理的に説明できる力をみる。

レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポートのポイント

- ・レクチャー②では、レクチャー①同様に説明される内容を、理解しながらメモをとり、自分の考えを整理しよう。
- ・グループワークでは、自分以外の受験者の意見を聴いて、自分とは違う考えがあるということも理解し、自分の考えをできるだけ深めるようにしよう。議論に積極的に参加することが、自分の考えの整理にも役立ちます。
- ・ふりかえりレポートでは、グループワークで議論したことだけでなく、レクチャー①・②、これまでの学習や体験も踏まえて、他者の意見をヒントに自らの考えを広げ、どのように変化したり、深まったか、文章で表現しよう。

面接（口頭試問を含む。）

面接（口頭試問を含む。）の内容	基礎的な学習成果に基づく口頭試問、志望する学類での学修に対する意欲や資質を問う面接を行う。 ※口頭試問では、「英語」と「数学」に関する基礎的な内容の口頭試問を実施します。
「高校等での学習」の成果として重視する点	自身の興味や関心を整理し、入学後の学修を見通す力や態度が身についている。
評価する資質や能力	高等学校までの基礎的な学習成果及び高等学校等での学びの実践に基づく、学類での学修に対する強い意欲や高い資質。

昨年の口頭試問の内容例
 （実際のものとは一部表現が異なります。）

〈英語〉

【提示資料】

Susan was planning to visit New York for the weekend. It was an hour drive from the student housing. While preparing for the trip, her roommate, Kate, walked in and asked where she was going. While talking to her about her travel plans, Susan discovered that Kate was also going to New York. Since Susan was planning to drive there, she offered to give Kate a lift. Kate, (ア) had originally planned to take the bus to New York, gladly accepted the offer. The girls then decided that they would leave at seven o'clock on Saturday morning, and return home together by nine o'clock on Sunday night.

【口頭試問内容】

問1 下線部の語の意味と最も近い語を①～④から選び、番号で答えなさい。
 ① became
 ② learned
 ③ said
 ④ thought

問2 (ア)に入れるのに最も適切な語を①～④から選び、記号で答えなさい。
 ① whom
 ② whose
 ③ what
 ④ who

問3 次の設問に対して、最も適切な答えを①～④から選び、記号で答えなさい。
 How did Kate eventually decide to go to New York?
 ① By bus
 ② By car
 ③ By lift
 ④ By train

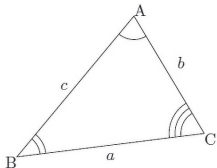
問4 次の設問に対して、最も適切な答えを①～④から選び、記号で答えなさい。
 What time would they get to New York?
 ① Around 7 o'clock
 ② Around 8 o'clock
 ③ Around 9 o'clock
 ④ Around 10 o'clock

問5 この英文に付けるタイトルとして最も適切なものを①～④から選び、記号で答えなさい。
 ① Holiday Travel to New York
 ② The Benefits of Traveling to New York
 ③ Visiting a Roommate in New York
 ④ An Unexpected Ride to New York

〈数学〉

【口頭試問内容】

問1 図の三角形について、次の(1)、(2)に答えなさい。
 ただし、辺の長さ a, b, c はそれぞれ異なる値とする。



(1) 角 A の正弦 ($\sin A$) を表すものとして適切なものを、番号で答えなさい。ただし、 R は三角形 ABC の外接円の半径、 r は三角形 ABC の内接円の半径とする。

- ① $\frac{a}{R}$
 ② $\frac{a}{2R}$
 ③ $\frac{a}{3R}$
- ④ $\frac{a}{r}$
 ⑤ $\frac{a}{2r}$
 ⑥ $\frac{a}{3r}$
- ① $\frac{a^2 + b^2 - c^2}{ab}$
 ② $\frac{b^2 + c^2 - a^2}{bc}$
 ③ $\frac{c^2 + a^2 - b^2}{ca}$
- ④ $\frac{a^2 + b^2 - c^2}{2ab}$
 ⑤ $\frac{b^2 + c^2 - a^2}{2bc}$
 ⑥ $\frac{c^2 + a^2 - b^2}{2ca}$

問2 大学生 10 人にアンケート調査を行ったところ、以下の結果が得られた。
 ●英語を話せる人は 7 人
 ●中国語を話せる人は 5 人
 ●スペイン語を話せる人は 4 人
 この調査結果から、次の(1)、(2)の主張が「確実に正しい」か、「必ずしも正しくない」か、どちらかを答えなさい。
 (1) 英語と中国語の 2 か国語を話せる人が少なくとも 1 人いる。
 (2) 中国語とスペイン語の 2 か国語を話せる人は 1 人もない。

学校推薦型選抜

1 選抜方法と日程

募集人員	看護学群：24 名 事業構想学群：40 名 食産業学群：28 名
出願資格	令和 8 年度大学入学共通テストのうち指定する教科・科目をすべて受験し、次の(1) から(4) までのすべてに該当する者 (1) 高等学校または中等教育学校を令和 8 年 3 月に卒業見込みの者 (2) 志望する学群に対し、熱意と適性を有する者で、高等学校または中等教育学校の長が責任を持って推薦できる者 (3) 合格した場合には、必ず入学することを確約できる者 (4) 調査書の全体の評定平均値が、看護学群に入学を志願する者は 4.0 以上、事業構想学群又は食産業学群に入学を志願する者は 3.8 以上の者で、人物、学力とも特に優秀である者

推薦人数の概要	看護学群 推薦できる人数は、宮城県内の高等学校または中等教育学校からは 1 校あたり 2 人まで、宮城県外の高等学校または中等教育学校からは 1 校あたり 1 人とします。 事業構想学群・食産業学群 推薦できる人数は、宮城県内の高等学校または中等教育学校からは 1 校あたり各学群 4 人まで、宮城県外の高等学校または中等教育学校からは 1 校あたり各学群 2 人までとします。 ※詳細は令和 8 年度入学 入学者選抜要項を確認してください。
---------	---

出願期間	令和 7 年 12 月 16 日(火)～令和 7 年 12 月 23 日(火) 【期間内必着】
------	---

令和 8 年度
大学入学
共通テスト

試験日：令和 8 年 1 月 17 日(土)・令和 8 年 1 月 18 日(日)
〈大学入学共通テストの利用教科・科目〉

教科	国語	地理歴史・公民	理科	数学	外国語	情報	合計
配点	200	100【※1】	100【※2】	200	250【※3】	100	950

教科	科目及び選択方法
国語	『国語』必須
地理歴史	『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『地理総合／歴史総合／公共』
公民	『公共、倫理』『公共、政治・経済』から 1 科目を選択
理科	『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』において 2 出題範囲を選択 又は『物理』『化学』『生物』『地学』から 1 科目を選択
数学	『数学Ⅰ、数学 A』必須 『数学Ⅱ、数学 B、数学 C』必須【※4】
外国語	『英語（リスニングを含む。）』必須
情報	『情報Ⅰ』必須

【※1】 地理歴史・公民において、『地理総合／歴史総合／公共』は、選択した 2 つの出題範囲の合計点を 1 科目の得点とみなします。地理歴史・公民を 2 科目(『地理総合／歴史総合／公共』(3 つの出題範囲から 2 つを選択解答))と、『地理総合／歴史総合／公共』で選択解答したものと同一名称を含まない 1 科目を受験した場合を含む。)受験した場合は、高い方の得点を用います。

【※2】 理科において、『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、選択した 2 つの出題範囲の合計点を 1 科目の得点とみなします。
理科を 2 科目(『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎(4 つの出題範囲から 2 つを選択解答))と、基礎を付さない 1 科目を受験した場合を含む。)受験した場合は、高い方の得点を用います。

【※3】 リーディングとリスニングの配点比率を 4:1 とします。なお、受験上の配慮によるリスニング免除者は、リーディングのみの得点を換算します。

【※4】 「数学 B」及び「数学 C」については、数列(数学 B)、統計的な推測(数学 B)、ベクトル(数学 C)及び平面上の曲線と複素数平面(数学 C)の 4 項目のうち 3 項目の内容の問題を選択解答してください。

選抜期日	面接実施日：令和 8 月 2 月 1 日(日)
------	-------------------------

選抜方法	大学入学共通テストの合計点、調査書、推薦書、自己申告書等の出願書類の内容及び面接の成績を総合的に判定します。
------	--

合格発表	令和 8 年 2 月 10 日(火)
------	--------------------

2 学校推薦型選抜はこんな方にオススメ！

- ・リーダーシップを発揮し、率先して様々な活動に取り組める方
- ・大学に入学してから、自分の進みたい道(学類)を決めたい方
- ・高校までの、偏りなく幅広く、継続した学習の成果が身についている方

3 入試科目「面接」の概要

評価する資質や能力	高校等での学びの実践に基づく、学群での学修に対する強い意欲や高い資質。
-----------	-------------------------------------

一般選抜〔前期・後期〕

1 選抜方法と日程

募集人員	看護学群：前期 48 名／後期 10 名 事業構想学群：前期 100 名／後期 20 名 食産業学群：前期 62 名／後期 12 名
令和 8 年度 大学入学 共通テスト	令和 8 年 1 月 17 日（土）・令和 8 年 1 月 18 日（日）
出願期間	令和 8 年 1 月 26 日（月）～令和 8 年 2 月 4 日（水）【期間内必着】
個別学力検査	前期：令和 8 年 2 月 25 日（水） 後期：令和 8 年 3 月 12 日（木） 看護学群：外国語（英語）、論説 事業構想学群：外国語（英語）、論説、数学 食産業学群：外国語（英語）、理科、数学 前期：令和 8 年 2 月 26 日（木） 後期：令和 8 年 3 月 13 日（金） 看護学群：面接
選抜方法	大学入学共通テスト、学群毎の個別学力検査の成績を基本として調査書等の内容を総合的に判定して行いますが、合否判定に用いた教科等において、得点のない教科等があった場合は合格者とはなりません。看護学群では、面接の評価が一定の基準に満たない場合は、合格対象から除外されます。事業構想学群及び食産業学群では、主体性等の評価のため、活動実績報告書を得点化して総合的な合否判定に用います。
合格発表	前期：令和 8 年 3 月 6 日（金） 後期：令和 8 年 3 月 20 日（金）

2 大学入学共通テスト及び個別学力検査の科目等

看護学群	一般選抜（前期日程・後期日程）共通
大学入学共通テストの利用教科・科目等	個別学力検査
教科	科目及び選択方法
国語	『国語』必須
地理歴史 公民	『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から 1 科目を選択
理科〔※1〕	次の (1) 又は (2) のいずれか (1)『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』において、「地学基礎」を除くいずれか 2 出題範囲を選択 かつ『物理』『化学』『生物』から 1 科目を選択 (2)『物理』『化学』『生物』から 2 科目を選択
数学〔※2〕	『数学Ⅰ、数学 A』必須 『数学Ⅱ、数学 B、数学 C』必須
外国語	『英語（リスニングを含む。）』必須
情報	『情報Ⅰ』必須
6 教科 8 科目	
大学入学共通テスト 理科の選択方法	大学入学共通テスト利用教科・科目における注意事項
(1)	※1・基礎を付した出題範囲と基礎を付していない科目について、同一名称を含むもの同士の選択を認めます。 ・『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』を選択する場合は、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」から 2 出題範囲を選択解答してください。
(2)	※2「数学 B」及び「数学 C」については、数列（数学 B）、統計的な推測（数学 B）、ベクトル（数学 C）及び平面上の曲線と複素数平面（数学 C）の 4 項目のうち 3 項目の内容の問題を選択解答してください。

事業構想学群	一般選抜（前期日程・後期日程）共通
大学入学共通テストの利用教科・科目等	個別学力検査
教科	科目及び選択方法
国語	『国語』必須
地理歴史 公民〔※1〕	次の (1) から (4) までのいずれか (1)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から 2 科目を選択 かつ『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』において 2 出題範囲を選択 (2)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から 2 科目を選択 かつ『物理』『化学』『生物』『地学』から 1 科目を選択 (3)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から 1 科目を選択 かつ『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』において 2 出題範囲を選択 並びに『物理』『化学』『生物』『地学』から 1 科目を選択 (4)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から 1 科目を選択 かつ『物理』『化学』『生物』『地学』から 2 科目を選択
理科〔※2〕	
数学〔※3〕	『数学Ⅰ、数学 A』必須 『数学Ⅱ、数学 B、数学 C』必須
外国語	『英語（リスニングを含む。）』必須
情報	『情報Ⅰ』必須
6 教科 8 科目又は 7 教科 8 科目	
大学入学共通テスト 地歴公民と理科の選択方法	大学入学共通テスト利用教科・科目における注意事項
(1)	※1『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組合せを選択することはできません。 ※2・基礎を付した出題範囲と基礎を付していない科目について、同一名称を含むもの同士の選択を認めます。 ・『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』を選択する場合は、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から 2 出題範囲を選択解答してください。
(2)	※3「数学 B」及び「数学 C」については、数列（数学 B）、統計的な推測（数学 B）、ベクトル（数学 C）及び平面上の曲線と複素数平面（数学 C）の 4 項目のうち 3 項目の内容の問題を選択解答してください。

食産業学群	一般選抜（前期日程・後期日程）共通
大学入学共通テストの利用教科・科目等	個別学力検査
教科	科目及び選択方法
国語	『国語』必須
地理歴史 公民〔※1〕	次の (1) から (4) までのいずれか (1)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から 2 科目を選択 かつ『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』において、「地学基礎」を除くいずれか 2 出題範囲を選択 (2)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から 2 科目を選択 かつ『物理』『化学』『生物』から 1 科目を選択 (3)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から 1 科目を選択 かつ『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』において、「地学基礎」を除くいずれか 2 出題範囲を選択 並びに『物理』『化学』『生物』から 1 科目を選択 (4)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から 1 科目を選択 かつ『物理』『化学』『生物』から 2 科目を選択
理科〔※2〕	
数学〔※3〕	『数学Ⅰ、数学 A』必須 『数学Ⅱ、数学 B、数学 C』必須
外国語	『英語（リスニングを含む。）』必須
情報	『情報Ⅰ』必須
6 教科 8 科目又は 7 教科 8 科目	
大学入学共通テスト 地歴公民と理科の選択方法	大学入学共通テスト利用教科・科目における注意事項
(1)	※1『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組合せを選択することはできません。 ※2・基礎を付した出題範囲と基礎を付していない科目について、同一名称を含むもの同士の選択を認めます。 ・『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』を選択する場合は、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」から 2 出題範囲を選択解答してください。
(2)	※3「数学 B」及び「数学 C」については、数列（数学 B）、統計的な推測（数学 B）、ベクトル（数学 C）及び平面上の曲線と複素数平面（数学 C）の 4 項目のうち 3 項目の内容の問題を選択解答してください。

3 入試科目「論説」の概要

論説の内容	課題文や資料（文章や図表等）を読み、設問に解答する。
「高校等での学習」の成果として重視する点	得られた事象や情報を整理・分析し、概要にまとめ、論述する力や態度が身につけている。
評価する資質や能力	与えられた事象や情報を的確に把握し、その中から必要なものを抽出・分析する力。さらに、課題を見出し、高校等での学習や自身の経験を資料等の内容と関連付けながら、その解決への道筋を考察し、論述できる力。

今年の「論説」の内容例

〈テーマ〉

「我が国の離島における地域活性化について」

〈与えられる資料〉

資料 1 離島の果たす多面的な役割に関する文章

【文章の概要】

我が国は世界有数の多島海洋国である。我が国の島々は、我々の生活や国全体にさまざまな役割を果たしており、その多くは離島の立地条件だけではなく、人の手が加わることではじめて発揮されている。離島には、豊かな海洋資源をもたらしてくれるなどの地理的特性がある。また、自然との触れ合いの場や癒しの場などの機会を提供する自然的特性がある。さらに、海や自然とともに生きる独自の生活文化などが受け継がれた文化的特性がある。

資料 2 関係人口に関する文章

【文章の概要】

多くの自治体では、人口減少などに直面する中、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、「関係人口」と呼ばれる、地域と多様に関わる人々が新たな地域づくりの担い手として期待されている。地域内の人が気づかない地域の魅力を発見する機会を作り、よそ者の視点から地域資源が評価されることで地域内の人がその場所の魅力を再認識することが期待される。

資料 3 関係人口に関するアンケート調査のグラフ

資料 4 ある島についての資料

資料 5 流人に関する文章①

【文章の概要】

流罪によってやって来た流人の存在は、先住民たちに善悪ともども多大な影響を与えた。八丈島には、明治 4 年（1871）までの 266 年間に 1,898 人が流されてきた。これら流人の身分・階級・職業は多種多様であった。これらの流人の中には高い学識を有する者もいて、彼らは島民の利便や文化向上に大きく貢献した。

資料 6 流人に関する文章②

【文章の概要】

御蔵島は桑やツゲの名木が島全体を覆う宝の島であったが、三宅島の属島であったため島民は極度に貧窮し、分離独立の声が上がっていた。御蔵島に流罪で送られてきた奥山交竹院は、島の状況を聞きつけた。彼は一人の若者をひそかに江戸に出して、船大工に弟子入りさせるなどして廻船を完成させた。島民は、島特産の名木を江戸に運べるようになり、三宅島を尻目に堂々と江戸通いをやっている。

資料 7 流人に関する文章③

【文章の概要】

利八はいつも徳右衛門の家に出入りして、創意工夫の知恵を授かっていたが、その天才的才能は流人にあったことを悟った。利八には、流人は油断のならぬ悪党どもという先入観念があったが、より開けた文明の世界で生活したり、その道を極めた人物もいたりすることを考えていなかった。そこで利八は、流人らが暮らす家をまわり、知識や技術の習得を始めるようになった。その効果はてきめんだった。

資料 8 ある島におけるフィールドワーク後の資料

〈設問〉

あなたは、10代～20代の若者の視点から我が国の離島における地域活性化の推進を考えるプロジェクトのメンバーに選ばれた。問1～3に答えなさい。

問 1 あなたは、離島の現状を知るために資料 1～資料 4 を集めた。これらの資料に基づき、次の設問に答えなさい。

- (1) 資料 1 は、我が国の離島の概要について述べた資料である。資料 1 から読み取ることのできる、島民だけではなく外部から訪れる人に対しても果たしている離島の自然的特性に由来する役割と、文化的特性に由来する役割について、あわせて 150 字以内で書きなさい。
- (2) 資料 2 は、関係人口についての説明である。資料 3 は、離島を含む東京 23 区以外の 18 歳以上の東京都民を対象とした、関係人口についてのアンケート調査の結果である。資料 3 から読み取ることのできる、関係人口という用語の認知度と理解度および「関係人口として関わりを持っている地域」との関係について、100 字以内で書きなさい。
- (3) 資料 4 は、離島 T 島についての資料である。資料から読み取ることのできる、2015 年前後でおきた T 島における転出入者数の変化、およびその要因として考えられることをすべて挙げるとともに、T 島での居住意向を巡る課題について、あわせて 150 字以内で書きなさい。

⇒ねらい：与えられた資料から注目する事象や情報を的確に把握する力、把握した事柄を簡潔に記述する力を評価した。

問 2 あなたは、離島と本土の交流の歴史を知るために、資料 5～資料 7 を集めた。資料 5～資料 7 は、中世から明治までに流罪（罪人を辺境や島に送り、その地への居住を強制する追放刑の一種）で島に送られた流人についての文章である。次の設問に答えなさい。

- (1) 資料 5 から読み取ることのできる、流人が島に与えた影響について、100 字以内で書きなさい。
- (2) 資料 6 と資料 7 は、どちらも流人と島民の関わりがあって発展した産業文化についての文章であるが、誰がどのように貢献したかについては違いがある。その違いについて 200 字以内で書きなさい。

⇒ねらい：登場人物の立場や境遇を理解することを通じて、流罪で島に送られた流人と島民の関わりについて論理的に説明する力をみた。

問 3 資料 8 は、別の離島（U 島）で、先行してフィールドワークを実施したチームが話している会話である。あなたは、このチームの情報をもとに、関係人口を増加させるための提案をすることになった。資料 2 に書かれた「地域の再発見」「誇りの涵養（かんよう）」「知識移転」「地域の宴客促進」「問題解決」のすべての視点を含めて 400 字以内で、U 島の関係人口の増加につながる提案をしなさい。なお、提案はいくつあってもかまわない。

⇒ねらい：先行してフィールドワークを実施したメンバーからの情報に基づいてその離島の課題を抽出し、さらに別の資料で与えた複数の視点をふまえながら、課題解決に導く力をみた。

論説のポイント

- ・1 つのテーマに関する複数の資料（文章、グラフ、表等）について、それらを関連付けながら読み解くことができるようにしよう。
- ・課題になっていることは何か、自分ならその課題にどう対応するかを常に考えるようにしよう。その時に、自分の考えを補強するためにはどんなことを調べたらよいかも、あわせて考えてみよう。
- ・普段から、論理的でわかりやすい文章で表現できるように心がけよう。

4 一般選抜における主体性等の評価

一般選抜における主体性等の評価は、看護学群では、面接で行います。

事業構想学群と食産業学群では、「活動実績報告書」として出願者に自己申告していただき、全出願者分を採点することとします。記載内容の根拠は、調査書にて確認し、その他の追加資料（e ポートフォリオ等）を求めることはしません。

主体性等の評価方法

看護学群：面接（前期日程では 2 月 26 日、後期日程では 3 月 13 日に実施する）

事業構想学群：活動実績報告書（出願時に自己申告する）

食産業学群：活動実績報告書（出願時に自己申告する）

〈「活動実績報告書」の内容〉

出願時に、以下の 5 項目のチェックリストを設け、出願者に自己申告していただきます。

出願者は以下の項目に関して自らの取組状況を振り返り、該当するかどうかを自己申告していただきます。

- (1) 高校における学習活動に主体的に取り組んできた
- (2) 部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んできた
- (3) 生徒会・学校行事等に主体的に取り組んできた
- (4) その他の活動に主体的に取り組んできた
- (5) 高校で取得した資格、検定等、獲得した賞がある

※ (1) には「総合的な探究の時間」等での探究活動を含みます。

記載内容の根拠の確認について

- ・調査書のいずれかの欄に 1 つでも該当する記述があれば、自己申告の根拠とします。
- ・調査書では「事実の記載があるかどうか」を根拠として確認します。記述の多寡は問いません。
- ・調査書が提出できない出願者については、インターネット出願サイトより出力される「活動実績報告書」に加えて、別途、具体的な取り組みについての自由記述による「活動実績報告書【追加記述用】」を作成し提出してください。

〔インターネット出願サイトより出力される活動実績報告書〕

〔調査書を提出できない方の活動実績報告書【追加記述用】〕

前編：Q1 編

令和7年度入学 宮城大学入学願書 一般選抜試験 前期日程

活動実績報告書

受験番号

姓 別 第 一 次

氏 名 生年月日 昭和・平成 年 月 日

フリガナ

志願者氏名

わたしは、高等学校等で取り組んできた活動内容を振り返り、チェックリストの5項目について以下のとおり報告します。

チェックリスト

(1) 高校における学習活動（「総合的な学習の時間」等での探究活動を含む）に主体的に取り組んできた

☐ 該当する ☐ 該当しない

(2) 部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んできた

☐ 該当する ☐ 該当しない

(3) 生徒会・学校行事等に主体的に取り組んできた

☐ 該当する ☐ 該当しない

(4) その他の活動（上記1～3を除く校内・校外での活動）に主体的に取り組んできた

☐ 該当する ☐ 該当しない

(5) 高校で取得した資格、検定等、獲得した賞がある

☐ 該当する ☐ 該当しない

令和7年度入学宮城大学一般選抜（前期日程）活動実績報告書追加記述用

受験番号

【注意事項】

・本票は、調査書を提出できない方で、**事業構想学群**又は**食産業学群**の志願者のみ作成し、提出してください。

・志望学群及び所属学号を記入し、該当する欄目に○印を付けてください。また、インターネット出願会場で申告した活動実績報告書やその他の項目について、申告に基づき「姓」又は「第1」のどちらかに○印を付けてください。

・「有」に○印を付けた項目についてのみ、具体的な取組内容を記載してください。右上の受験番号欄には必ず記入しないでください。

志望学群

フリガナ

姓 別 第 一 次

氏 名 生年月日 昭和・平成 年 月 日

出願登録時の申告(1)

(1) 高校における学習活動（「総合的な探究の時間」等での探究活動を含む）に主体的に取り組んできた

有・無

出願登録時の申告(2)

(2) 部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んできた

有・無

出願登録時の申告(3)

(3) 生徒会・学校行事等に主体的に取り組んできた

有・無

出願登録時の申告(4)

(4) その他の活動に主体的に取り組んできた

有・無

出願登録時の申告(5)

(5) 高校で取得した資格、検定等、獲得した賞がある

有・無

（※令和 7 年度入学者選抜で使用したものです。令和 8 年度入学者選抜では変更が生じる場合があります。）

入学者選抜方法についてのQ & A

● 総合型選抜に関すること

Q 1 総合型選抜には、学校長の推薦書が不要となっていますが、高校等の卒業見込み者だけでなく、既に高校等を卒業した者でも出願できますか。

A 1 総合型選抜の出願資格は、学校推薦型選抜と異なり、必ずしも高校等の卒業見込み者であることを求めているわけではありません。令和 8 年度入試では平成 15 年 4 月 2 日以後に出生された方で、その他の要件を満たす方であれば、出願資格があります。

Q 2 調査書の評定はどのくらい必要ですか。

A 2 総合型選抜では、出願要件としての基準を設けていません。評定だけではなく、調査書の内容を総合的に評価します。

Q 3 自己申告書①に記載できるのは、学習の成果だけですか。部活動等について記載しても評価されないのでしょうか。

A 3 学習成果（各教科の学習、ホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事での成果）を評価対象としています。部活動や校外での活動を除外するものではありませんが、「学習成果」と関連付けて記載してください。

Q 4 レクチャー①、レクチャー②の内容は志望する学群・学類に関連した内容が出るのですか。

A 4 全学類の受験者に対して同じ内容のレクチャーを行いますので、必ずしも志望する学群・学類に関連した内容ではありません。

Q 5 レクチャー②は、第1次選考のレクチャー①と関連する内容ですか。

A 5 レクチャー②の内容は、レクチャー①のテーマを踏まえ、多様な視点を加えて発展させたものを予定しています。

Q 6 レクチャーレポート作成のためには、どのような対策が必要ですか。

A 6 高等学校等での授業の時に先生が話した内容についてメモをとり、自分で整理することがとてもよいトレーニングになります。

Q 7 総合型選抜で入学することのメリットは何ですか。

A 7 総合型選抜合格者は、入学時から学類が決定しているため、1 年次から、各学類の 2 年次からの専門的な学びを見通した学修に取り組むことができます。

Q 8 学校推薦型選抜・一般選抜との併願はできますか。

A 8 本学の学校推薦型選抜・一般選抜にも出願することができます。ただし、総合型選抜に合格し、入学手続を済ませた後は、他の入試区分の入試を受けても合格者とはなりません。

● 学校推薦型選抜に関すること

Q 9 総合型選抜・一般選抜との併願はできますか。

A 9 本学の総合型選抜・一般選抜にも出願することができます。ただし、学校推薦型選抜に合格し、入学手続を済ませた後は、他の入試区分の入試を受けても合格者とはなりません。なお、他の国公立大学の学校推薦型選抜とは併願できませんので、注意してください。

Q 10 大学入学共通テストの得点はどのように扱われますか。

A 10 本学が指定する教科・科目の大学入学共通テストの合計点は、出願書類の内容及び面接の成績とともに、総合的な合否判定に利用します。

● 一般選抜に関すること

Q 11 数学や理科の個別学力検査の出題範囲を教えてください。

A 11 事業構想学群と食産業学群で課される数学においては、「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学 A」「数学 B（数列，統計的な推測）」「数学 C（ベクトル）」からの出題を予定しています。
また、食産業学群の個別学力検査において、理科は化学又は生物いずれかの選択となります。化学は「化学基礎」「化学」の全範囲からの出題を、生物は「生物基礎」「生物」の全範囲からの出題を予定しています。

令和 7 年度入学 入試結果

入試の単位	区 分	学群	学類	募集人員	出願者数	第 1 次選考 受験者数	第 1 次選考 合格者数	第 1 次選考 実質 競争倍率	第 2 次選考 受験者数	第 2 次選考 合格者数	第 2 次選考 実質 競争倍率	実質競争 倍率 (全体)	入学者数
学類単位の 入試	総合型選抜	看護学群	看護学類	8	64	64	25	2.6	25	8	3.1	8.0	8
		事業構想学群	事業プランニング学類	8	39	39	23	1.7	23	9	2.6	4.3	9
			地域創生学類	8	28	28	21	1.3	21	10	2.1	2.8	10
			価値創造デザイン学類	8	31	31	20	1.6	20	9	2.2	3.4	9
		食産業学群	生物生産学類	8	16	16	14	1.1	14	10	1.4	1.6	10
			フードマネジメント学類	8	25	25	20	1.3	20	8	2.5	3.1	8

入試の単位	区分	学群	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	実質競争 倍率	入学者数
学群単位の 入試	学校推薦型 選抜	看護学群	24	69	68	29	2.3	29
		事業構想学群	40	121	119	49	2.4	49
		食産業学群	28	33	32	28	1.1	28
	一般選抜 (前期)	看護学群	48	132	105	53	2.0	52
		事業構想学群	100	319	267	116	2.3	116
		食産業学群	62	181	156	76	2.1	69
	一般選抜 (後期)	看護学群	10	119	29	10	2.9	9
		事業構想学群	20	333	126	22	5.7	20
		食産業学群	12	247	68	17	4.0	15

令和 7 年度出身校所在地別志願者数・入学者数

出身校 所在地	看護学群						事業構想学群						食産業学群					
	志願者数			入学者数			志願者数			入学者数			志願者数			入学者数		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
北海道	0	3	3	0	0	0	1	11	12	0	4	4	3	8	11	2	0	2
青森県	1	14	15	1	5	6	34	38	72	8	13	21	11	18	29	2	6	8
岩手県	1	24	25	0	5	5	24	33	57	6	12	18	4	24	28	1	9	10
宮城県	15	231	246	2	55	57	249	301	550	55	73	128	88	155	243	20	38	58
秋田県	3	8	11	2	2	4	20	30	50	4	9	13	3	17	20	1	9	10
山形県	0	23	23	0	6	6	17	21	38	1	7	8	5	10	15	1	4	5
福島県	3	32	35	0	11	11	21	17	38	4	3	7	29	15	44	8	5	13
東北 6 県	23	332	355	5	84	89	365	440	805	78	117	195	140	239	379	33	71	104
関東	0	16	16	0	6	6	12	6	18	3	3	6	16	39	55	1	9	10
中部	0	10	10	0	3	3	6	13	19	1	2	3	19	28	47	8	6	14
近畿	0	0	0	0	0	0	1	6	7	1	1	2	4	2	6	0	0	0
中国・四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0
九州・沖縄	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	2	2	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	7	2	9	1	1	2	1	2	3	0	0	0
合計	23	361	384	5	93	98	393	480	873	84	130	214	183	321	504	44	86	130

入学者選抜に関する問い合わせは

宮城大学 アドミッションセンター

大和キャンパス／〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1

TEL.022-377-8333 FAX.022-377-8282

宮城大学ウェブサイト <https://www.myu.ac.jp/>